

# 近畿大学 教育論叢

The Research Journal of the Department of Teacher Education  
Kindai University

第29卷第2号



2017

■ 近畿大学教職教育部 ■

近畿大学教育論叢

第二十九卷第二号

平成二十九年(二〇一七)十二月

近畿大学教職教育部

 近畿大学

# 目 次

社会科における ICT を活用した教材開発の可能性

—社会科教育法の授業実践より—

Classwork Suggestions Using ICTs in Social Studies:

A Case Study of Social Studies Methodology

……………下村 隆之 (SHIMOMURA Takayuki)…… 1

コンストラクション系理論を背景とした大学におけるキャリア教育・支援と教職協働 PD

Career Services with Construction Theory in University and PD which is Based

on Collaboration between Academic Faculty and Administrative Staff

……………上藤伊知郎 (UEFUJI Ichiro)……17

そもそもカリキュラムマネジメントとは？

—美原中学校におけるカリキュラムマネジメントから考える—

What is Curriculum Management? :

Thinking from the Curriculum Management in Mihara Junior High School

……………杉浦 健・奥田 雅史

(SUGIURA Takeshi・OKUDA Masashi)……49

職業体験と修学旅行を結びつけた取り組み関する一考察

—地域の持続可能性を目指して—

A Study on Efforts to Link Vocational Experience Learn with School Trips:

Aiming for Regional Sustainability

……………西仲 則博 (NISHINAKA Norihiro)……71

編集発行内規

投稿要領

編集後記

## 『近畿大学教育論叢』編集発行内規

第1条 近畿大学教育論叢（以下「本誌」という）は、教職教育部が年1回以上発行する。

第2条 本誌の編集、発行の任にあたるため編集委員会を置く。

2. 編集委員会は、委員長1名、委員若干名をもって構成する。
3. 委員長、委員は、教職教育部教授会の承認を経て、教職教育部長が委嘱する。

第3条 投稿者（執筆者）は、原則として本学園教職員に限る。但し、編集委員会の議を経て教職教育部長により投稿を認められた者はこの限りではない。

2. 投稿者は、別に定める「投稿要領」に従って、原稿を作成することとする。

第4条 原稿の校閲および採否の決定は、編集委員会が行う。

2. 編集委員会は、投稿原稿の本誌掲載の採否を判断するため、審査を行う。
3. 編集委員会は、投稿者に対し、上記審査に基づき、内容の修正等を求めることができる。

第5条 編集発行内規の改正に関しては、編集委員会の議を経て、教職教育部教授会で決定する。

第6条 当該原稿の著作権は、著作者および共著者に帰属する。

2. 著作者および共著者は、当該原稿に係わる複製権、公衆送信権及び譲渡権の許諾を近畿大学に与えるものとする。
3. 近畿大学が当該原稿の電子化・公開を委託する機関に対して、公衆送信権および複製権の許諾を与えるものとする。

附 則

この内規は、平成24年4月1日から施行する。

## 『近畿大学教育論叢』

(The Journal of the Department of Teacher Education, Kindai University)

### 投稿要領

- 1) 原稿は未発表のものに限る。
- 2) 原稿は原則として、ワープロを使用して作成、提出するものとする。
- 3) 原稿締め切り時に、原稿をコピーしたものを3部、提出する。査読終了後、掲載が決定した論文については、コピーした原稿1部と、訂正したデータをメールで編集委員会に提出する。
- 4) 原稿には表紙を付し、次の事項を記入する。
  - イ. 表題 (含む副題)
  - ロ. 表題の英文 (含む副題)
  - ハ. 氏名、所属、職名
  - ニ. 連絡先 (教職教育部の専任以外の投稿者の場合、メールアドレスを含む)
  - ホ. 別刷りの必要部数 (規定部数を50部とし、それを超える分は自己負担とする)
  - ヘ. キーワード (5個以内)
- 5) 用紙はA4判を用い、原則として横書きで原稿を作成する。40字×30行の書式で、原則30枚以内とする。
- 6) 手書きの場合は、投稿者は編集委員会に申し出る。前項の字数を超えないことを条件に、書式、枚数などを協議する。
- 7) 本文中で、活字の大きさ、書体を変える場合は、具体的に指示する。
- 8) 表、図、写真などは、刷り上がりの大きさを指定し、具体的に指示する。
- 9) その他原稿の投稿に関しては、編集委員会で協議する。
- 10) 投稿原稿の執筆は、次の通りに行う。
  - ①英文の題名、副題、著書名については、すべての単語 (前置詞および、冠詞 the などを除く) の最初を大文字にする。
  - ②英文論文題名の副題は、コロン (:) で分ける。
  - ③和文の句読点は、(、) (。 ) を用いる。文献では、コンマ、ピリオドを認める。
  - ④図は、Figure 1、Figure 2 あるいは、図 1、図 2 とし、表は、Table 1、Table 2 あるいは、表 1、表 2 のように通し番号をつけ、論文内で統一された表記を使用する。
  - ⑤必要に応じて大見出し、中見出し、小見出しを用い、その表記は次のようにする。

大見出し 1. 2. ……

中見出し (1)、(2)……

小見出し ①、②……

⑥引用文献・資料は、以下のように記述する。なお注について文献を示すことも可能とする。

著書名、発行年、題名、出版社、引用ページ数（頁、ページ、p など）

⑦引用論文の表記については、次の順に記述する。

著書名、発行年、論文名、雑誌名、ページ

平成29年7月1日 改訂

## 編集後記

平成29年度の近畿大学教育論叢第2号を発行することになりました。本号は4本の論文を掲載しております。第1号に引き続き、多くの論文をお寄せいただきまして感謝申し上げます。

4本の論文はいずれも、学校教育に関わる今日的な課題に向き合い、教育実践を考えるに当たり示唆に富む考察が展開されています。まず、下村論文では、教科教育法の授業で実践されている模擬授業をもとに、学生たちがいかにしてICTの活用技術を修得しているのかを報告しています。ICTの活用をきっかけに、学生たちが授業をいかにして双方向的に構成するかに関心を向けるようになり、結果として主体的で対話的な学びを創出することへの意識が生まれていることもまた、有益な成果として示してくれています。

次に、上藤論文は、大学におけるキャリア教育・キャリア支援事業の在り方をめぐり、理論的な背景を精緻におさえ、かつ実践事例を援用しながら、その現状と課題を明らかにしています。そのうえで、これからのキャリア教育・支援に何が必要かを具体的に提示してくれています。

そして、杉浦・奥田論文は、学校の教育課程の実施に際して重要視されている「カリキュラムマネジメント」について、それが目標設定や組織づくり、学校内外の連携、評価や改善に係る活動をも包含する複合的な概念であることをおさえ、美原中学校のカリキュラム策定を例に用いながら、「カリキュラムマネジメント」の実際を明示してくれています。

最後に、西仲論文は、中学校の修学旅行の学びにキャリア教育を結びつけた実践をもとに、その意図や教育効果を報告しています。この取り組みは、先の「カリキュラムマネジメント」ともつながるところが大きく、学校における教育活動のマネジメントの意味とともに、生徒の将来を見据えた教育活動の必要性を改めて考えさせてくれます。

専門分野を異とする研究者の問題意識や研究成果を、このように一冊に収めることができるのも、紀要ならではの面白さではないでしょうか。ぜひご一読いただき、この紀要をきっかけとして議論を交わし、それぞれの研究に生かしていただければ幸いに存じます。

なお、各論文に使用されている画像に関しましては、本人及び関係者の承諾を得るなど、倫理的配慮が十分になされていることを編集委員会にて確認いたしました。ここに改めて記します。

近畿大学教育論叢編集委員会

光田尚美、小口功、辰己勝、下村隆之

---

### 近畿大学教育論叢 第29巻第2号

平成29年12月20日 印刷

平成29年12月20日 刊行

発行人 近畿大学教職教育部長  
戸井田 克己

発行所 近畿大学教職教育部  
577-8502

東大阪市小若江3丁目4番1号

印刷所 近畿大学管理部用度課(出版印刷)

---